

26
1704

橫田國臣著

宇宙根本問題

東京 廣文堂書店發行

橫田國臣著

宇宙根本問題

東京 廣文堂書店發行



自序

予は從來法律研究の資料として所謂眞理の研究に熱中したる者なり其研究の第一期として法律哲學を著し第二期として政畧哲學を著し第三期として靈魂哲學を著し其當時に於ては生死の問題解決を以て

最終の研究と爲し頗る自得満足の意を表示したるに拘はらず猶ほ研究す可き餘地の存することを知りながら其蘊奥を極めざるは學者の本意に非ず勇氣を鼓舞して第四期の研究に移り折柄腦溢血の難病に罹り轉地療養中醫師の忠言をも顧

ず宗教改良論の書名の下に觀察哲學の端緒を發表せり今又第五期の研究として本書を著す蓋し一期の研究時間概ね五六年若くは七八年にして各期の著書頗る簡約を旨とし想ふ所は十分の一を言ふ能はず言ふ所は十分の一を盡す能はず讀

者も亦觀察の勞を分擔せられんことを希望す

著者識す

→(4)←

宇宙根本問題目次

前加問題

- 第一 觀察の研究如何……………一
第二 眞理とは何ぞや……………一四
- ### 根本問題

- 第一 宇宙果して始ある乎……………三
第二 宇宙果して限ある乎……………三
第三 世界の創設如何……………三

附加問題

→(1)←

第一 人類進歩の趨勢如何……………三
 第二 法律將來の傾向如何……………六

獨庵哲學			
全 一 冊			
目		次	
靈	法	政	觀
魂	律	略	察
哲	哲	哲	哲
學	學	學	學

(錢十五金價定)

目次終

宇宙根本問題

横田國臣著

前加問題第一

觀察の研究如何

獨庵主悠々得々として歌て曰く
 悟るべき悟りの道は悟るまで悟るを
 待ちて悟るなりけり
 又先師の遺稿を繙き慨然として朗吟し

て曰く

三千年來人碌々意氣振四海呼吸通九天

佛は五戒を設け儒は五常を教へ耶蘇は十訓を示し福澤翁の如きも亦獨立自尊を説く我輩は之を非難する者に非ず然れども唯是れ俗界を誘導するの常道たるに過ぐ可からず

老子曰く道の道とす可きは常道に非ず

と孔子も亦老子を評して曰く其れ猶ほ龍の如き乎獸の如く網す可からず魚の如く綸す可からず鳥の如く罾す可からず云々蓋し常道を本義として天下後世に榜標せんとする者等の如き眞理を聽て一驚を喫するは敢て怪むに足らざるなり

老の玄道と禪の悟道とは道統の歴史を異にすと雖も人間萬事常道を以て律す

可からざることを覺悟したるは其識見の非凡なるものと謂はざる可からず惜哉其識見の非凡なるに拘はらず玄道は無爲とか虚無とか人をして五里霧中に彷徨せしめ悟道も亦以心傳心と謂ふが如き言ふ可からざるの妙味として言ふこと能はざりしは眞理を認むるも眞理を説くこと能はず單に自個自得の業として理外に超然たりしは進取の發達

力に乏き者と評せざる可からず況や其自得したりと自負する者も多くは誤得したる者のみならん老禪の徒にして幾千百年未た何等の發明したりと稱す可き程のもの無く今日に至るまで不言自覺を以て遁辭の口實としたるは眞理に悟達せざるの證左とするも敢て無理ならざる可し予の今日より推測する所に依れば老も

禪も理外の理あることを發見したるは頗る其卓見に感服せざる可からず然れども理外の理なるものも固より理外なるに非ずして理内のものたることを知らず假令之を知りたりとするも推理の困難なるを以て不言自覺を主義としたるは妙と謂へは妙なりと雖も我輩は學界の擴張を促す爲め古人の古式に安ずること能ざるものなり

西洋的の學風は推理を主とするに因り論理的に流れ易く務めて定義とか要素とかを以て事理を分析せんとす隨て之を教示するは甚だ明瞭にして便益なりと雖も理外の理と謂ふが如きは頗る其の妙味を發揚し難きの弊なきに非ず東洋的の學風は觀察を主とするに因り空想に流れ易く言外の意を探り無中の有を認むるに吸々たり隨て意氣の高尙

なるに拘はらず説かんと欲して説く能はず學ばんと欲して學び易からず今日の衰體に陷る所以なる可し

予は常に人に語て曰く雅畫を學はんと欲する者は密よりして疎に入らざる可からず例は一目を畫くに十回の運筆を要するとせば先づ一回の運筆を減じ而て其目たるを認むるに足るときは更に二回の運筆を減じ又更に三回の運筆を

減じ終に九回の運筆を減じ單に一回の運筆のみを以て猶ほ能く其目たるに充分なるときは疎畫の妙味を發見するに至る可し最初より一回の運筆を以て直に一目を畫かんと欲するも到底妙處に達すること覺束なかる可し

嘗て予の親族に橋本某なる老人あり數理上の觀察に於けるや百發百中能く人を驚かせり例ば彼の山までは幾里幾丁